

平成26年度 《第2回》 重粒子線 医工連携セミナー

平成26年5月19日(月) 18:00～

場所：群馬大学重粒子線医学センター

カンファレンス室

胎児・子どもの放射線影響について考える

島田 義也 先生

放射線医学総合研究所 発達期被ばく影響研究プログラム

胎児・こどもは放射線による発がん感受性が高いと言われます。組織の細胞が活発に分裂していて、放射線による傷の修復間違いが多く、また、発生した突然変異細胞のクローンが拡大するチャンスが大きいことや、被曝後も長い年月を生きることで、変異細胞にさらに他の発がん物質による傷が蓄積し、悪性化する機会も大きくなるからです。原爆被ばく者の調査では、こどもの大人に比べ2-3倍リスクが高いと計算されています。チェルノブイリ事故では小児は被ばくによって甲状腺がんのリスクが増加しましたが、大人では増加がみられていません。また、最近では、CT検査を複数回受けたこどもに白血病が増えるという報告も出てきました。放射線の発がんリスクは、線量や線量率、年齢、遺伝的な要因などいろいろな要因に依存しています。放射線によるがんのリスクについて、重粒子線とγ線のエビデンスを比較しながら考えてみたいと思います。

= 共催 =



がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
放射線治療人材養成8大学連携プログラム



博士課程教育リーディングプログラム
群馬大学 重粒子線医工学グローバルリーダー養成プログラム

= お問い合わせ先 =

群馬大学重粒子線医学研究センター 猪爪 (E-mail:inoino@gunma-u.ac.jp)
〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22 TEL: 027-220-8378